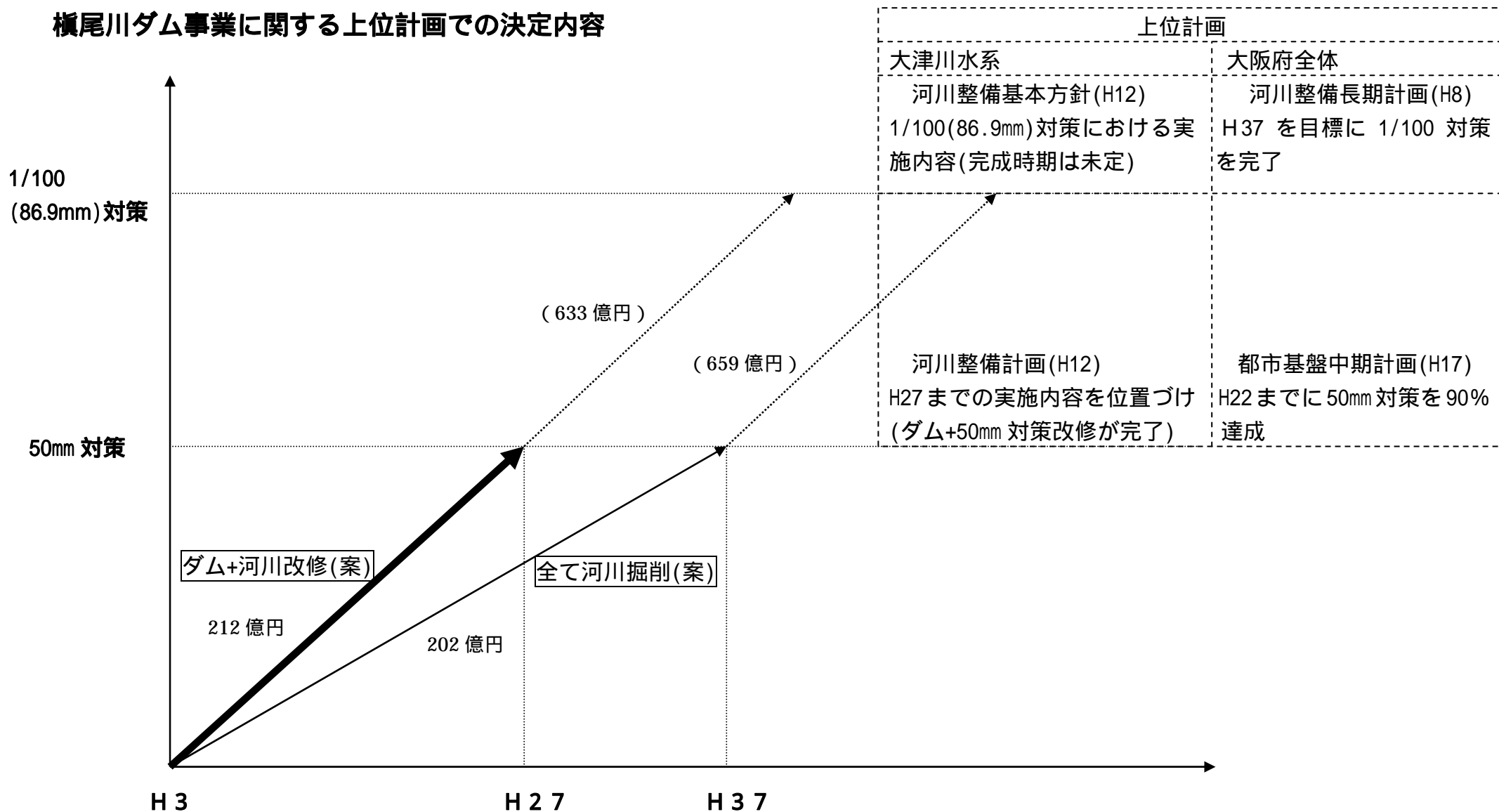


槇尾川ダム事業のこれまでの評価結果と今回の審議ポイント

再評価：以下の視点につき状況変化がないか、条件への対応ができていないかを点検

	これまでの評価結果及び報告内容		状況変化等と審議ポイント(案)	
	必要性 (上位計画)	H11 評価	時間雨量 50mm 対策は府民が最低限保障される水準であり、行政の責務である (H10 年度末進捗率 84%)	変化なし
	H11 評価 H12 報告	計画降雨量、流出解析手法、計画高水流量の算出方法など技術的問題につき、府の計画に根本的な誤りはない 「大津川水系河川整備方針」「同整備計画」策定	変化なし	
事業計画 (進捗状況)	H16 評価 H16[条件]	1/100(86.9mm)対策の治水ダム、事業費 128 億円、完成予定 H23 遅滞なく事業を進捗させること	計画内容は変更なし 完成予定 H27	中下流河川改修と合わせた効果発現時期は H27 で変わらず
優先度 (実現性)		(50mm 対策が完了していない)	本事業の優先度 (H27 完了の実現性を含む)	
事業効果	H11 評価	将来必要となる 1/100(86.9mm)対策の観点から有効	変化なし	
効率性(コスト縮減含む)	H16 評価 H16[条件] H19 報告	B/C 1.46 可能な限りコスト縮減に努めること 本体工事に関するコスト縮減内容 (3.9 億円減) の報告	B/C1.27 工事費 8 億円減	用地費等 8 億円増で総事業費(128 億円)は変わらず
自然環境等影響	H12 報告 H16[条件] H19 報告	「槇尾川ダム自然環境保全に関する基本方針」策定 自然環境の具体的な対策を取りまとめること 「槇尾川ダム自然環境保全計画」策定	変化なし	
代替案検討	H16 評価	河川改修案と(1/100 対策と比較すると)経済的な優劣の差はほとんどないが、災害リスクが早期回避される (50mm 対策が概ね 10 年早い)	ダム事業の優位性(河川改修との比較)	

槇尾川ダム事業に関する上位計画での決定内容



大阪府の河川整備の考え方について

1. 将来計画

河川審議会答申(平成3年12月、平成8年6月)【国土交通省】

治水計画の整備目標は、大河川については、100年から200年に1度、中小河川については、30年から100年に1度の規模の降雨を対象とした計画目標のもとに整備を推進する。

河川砂防技術基準

計画の規模は、一般には計画降雨の降雨量の年超過確率で評価するものとし、その決定にあたっては、河川の重要度を重視するとともに、既往洪水による被害の実態、経済効果等を総合的に考慮して定めるものとする。



大阪府河川整備長期計画(平成8年3月)

一生に一度経験するような大雨(概ね100年に一度発生する程度)が降った場合でも、川があふれて、人が亡くなるようなことをなくすことを目標とする。

2. 段階的整備

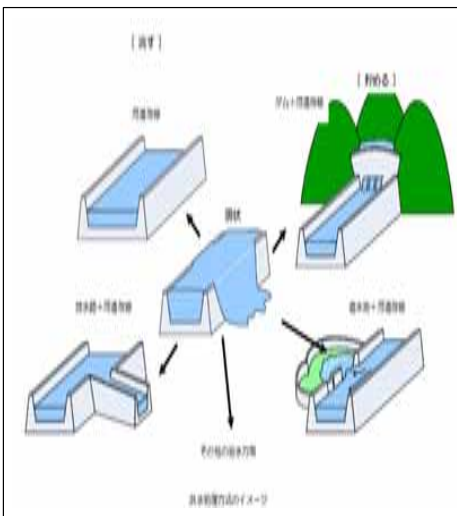
100年に一度の豪雨、おおむね時間雨量80ミリの豪雨を対象とした治水計画の策定を行うと同時に、当面の目標として、時間雨量50ミリに対応できるように段階的な整備を進めていくこととしており、これまでの浸水被害状況や、河川の現況や沿川の土地利用状況などを勘案して、次の整備パターンにより事業を進めている。

おおむね時間雨量80ミリに基づく川幅で用地の取得や護岸の整備を行い、河床掘り下げなどを残して50ミリ対応を実現しているところ、今後河床掘り下げなどにより将来計画を推進する。

激甚な災害をこうむった河川などにおいて、下流から順次将来計画に基づく抜本的な改修を進める。

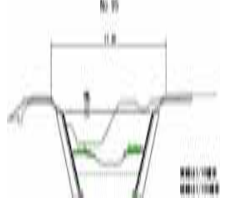
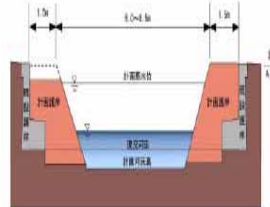
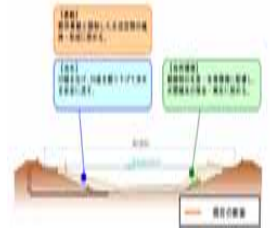
以前から50ミリ対策に基づく改修を行っている河川で、河道の拡幅を始め、ダム、遊水地や放水路の実現の可能性などの検討を行い、事業化を図る。

比較的大きな河川で既に時間雨量50ミリの対策が概成しており、用地買収の必要性もなく、将来計画に基づいて改修を進める。



当面の目標としている50ミリ対策の今後の進め方については、過去の災害の発生の状況や影響、沿川の土地利用状況などを勘案して、治水安全度の評価や経済性の評価を行い、それぞれの河川の特性を生かした実施計画を策定し、緊急性の高いところから重点的に整備している。

(参考) 河川計画 三大都市比較表

	将来の計画対象降雨	当面の計画対象降雨	河川断面
大阪府	100年に一度の確率で発生する規模の降雨	1時間あたり50mm規模の降雨	 <p>手戻りが無いよう、先に護岸は将来計画(1/100)で築造する。将来は、河床を掘削することで、1/100に対応する。</p>
東京都	50～100年に一度の確率で発生する規模の降雨	1時間あたり50mm規模の降雨	 <p>手戻りが無いよう、先に護岸は将来計画(1/100)で築造する。将来は、掘削や、地下河川等で1/100に対応する。</p>
愛知県	100年に一度の確率で発生する規模の降雨	10年から30年に一度の確率で発生する規模の降雨	 <p>手戻りが無いよう、先に護岸は将来計画(1/100)で築造する。将来は、河床を掘削する。</p>
河川審議会答申	30年から100年に一度の確率で発生する規模の降雨	5年から10年に一度の確率で発生する規模の降雨	

榎尾川ダム事業の審議ポイント（案）

1 治水対策の進捗状況からみた本事業の優先度

- ・ 府内河川全体の 50 mm対策の現状と整備方針
- ・ 榎尾川河川改修（50 mm対策）の状況と今後の予定

P5 参照

P5 参照

2 榎尾川上流部におけるダム事業の優位性（河川改修との比較）

- ・ 上流部における過去の洪水被害状況と降雨の被害想定
- ・ 上流部の河川改修（掘削）案の場合の区間・費用・期間

P6 参照

P7, P8 参照